

全国高校生ボランティア・リーダーズ・サミット2003 全員参加でサミット宣言を採択

全国各地のボランティアリーダーやボランティア活動を志す高校生が一堂に集い、ボランティア体験(フィールドワーク)やグループ・ゼミを通して、ボランティアリーダーとしての資質向上とリーダー相互の交流を促進し、地域における10代のボランティア活動の推進普及を目的として、8月19日から21日まで、栃木県足利市の市民会館別館ホール、研修センター、総合福祉センターを会場に「全国高校生ボランティア・リーダーズ・サミット」を開催した。



足利・足利市国際交流協会・足利商工会議所・足利YMCAなどとの共催、協力を得、子どもゆめ基金の助成事業として実施した。

JYVAでは、1981年の国際障害者年から「10代のボランティアが集い創る活動文化祭」を開催してきたが、今年度から、参加対象を高校生に絞り、しかも地域レベルで活動している高校生ボランティアが企画運営し、地域の関係者が高校生を支える仕組みを作り、高校生が主体的にサミット宣言を創りあげる事業として新規に立ち上げたものである。

今年4月から企画したにも関わらず、短期間で内容の濃い集いを高校生実行委員が企画し、それをサポーターが支えていったことは高く評価でき、足利方式として今後に大きな示唆を与えるものとなった。

テーマは“One for all,
All for One”

第一回サミットのテーマは“One for all, All for One～一人はみんなのために、みんなは一人のために～”。テーマは高校生実行委員会が、サミットの開催に向けての想いと、ボランティア活動を振り返った討議によって決めたものであった。

足利市・足利市教育委員会・(福)足利市社会福祉協議会・NPOコンソーシアム

参加者数は80名。栃木県全域、岩手・山形・群馬・埼玉・茨城・東京・愛知・兵庫・大阪・愛媛からの参加があった。グループ・ゼミをサミットの基本単位とし討議や意見交換を行った。ゼミのファシリテーターは石井布紀子(コラポねっと代表・兵庫)、太田昌也(大阪ボランティア協会常務理事)、高井正(社会教育主事・埼玉)、菊池修(えひめNPOセンター代表理事)、大出真生(開催地足利出身、日本福祉大学大学院)、塩沢達俊(足利YMCA主事)の各氏という全国屈指の人たちが、高校生たちの討議の産婆役・水先案内・挑発役となった。

8/19(火)

活動を共有しながら

開会式は、市民会館別館ホールで行われた。実行委員長であるボランティアグループ“風”14代目キャプテンの大塚沙織さんは「3日間を共に過ごして、多くの話をしたい。今回のサミットの経験を生かし、今後、前向きな活動をしていこう」と呼びかけた。

オープニング・イベントは、足利工業大学付属高校吹奏楽部による吹奏楽。緊張がちょっと和らぎ始めたようであった。

全国公募で選ばれた山形県大江町の「ボランティアサークル夢憧布(ポケット)」の柏倉彩子さん(左沢高校3年)他7名、埼玉県坂戸市の「わかばのチカラ」の雨宮由紀さん(筑波大学付属坂戸高校3年)、栃木県足利市の「ボランティアグループ“風”」、茨城県「麻生町高校生会」の石神麻子さん(潮来高校3年)が全国事例発表をおこなった。いずれの事例も学校を単位としたものでなく、地域に暮らす高校生のボランティアグループからの発表となった。

ボランティアサークル夢憧布(ポケット)は山形県各市町村ごとに組織されている団体の一つであり、24年の歴史を持っている。施設訪問、行事の手伝い、お年寄りとの交流などさまざま。高校生は夢憧布のメンバーになれるが、中学生がメンバーとなるミニ夢憧布があり、OBたちと連携した活動も展開している。参加者の中には初代のメンバーの子どもが兄弟で参加していた。

アイスブレイキングを経て、「ボランティアってなんだろう?」をテーマにみんなでワークショップを行い、グループごとにボランティアのイメージと言葉を画用紙に表現し伝えあった。



全国高校生ボランティア・リーダーズ・サミット2003 宣言

私たちは「One for all, All for One～一人はみんなのために、みんなは一人のために～」をテーマとする「全国高校生ボランティア・リーダーズ・サミット」に参加して、各地でいろいろな活動をするたくさんの仲間たちと出会い、楽しく交流することができました。ひと味違った仲間と友情を深め、つながりを感じることができました。そして、これまでの自分をもう一度見つめ直す機会にもなりました。多様な活動を認め合い、ひとり一人が自分から動いてみると、可能性が拓けていきます。そのことを、今回出会った人たちの勢いから学ぶことができたと思います。

私たちは、今日これから全国各地へ戻ってゆきますが、新しい創造へ向けての旅立ちにあたり、次のことを宣言します。

■グループ・ゼミ①から

一人ひとり個性があって、それぞれ違うことを思っている。でもまたそれがいい。空気が変わってしまっても気まずくなっちゃった時もあるけど、それは優しさや笑顔と思えばいい。これから乗り越えていく。優しさキラキラ 個性キラキラ 笑顔キラキラ キラキラまんてんで頑張ります。

■グループ・ゼミ②から

- 一、私たちは積極的に交流し、情報交換を大切にしています。
- 一、話しやすい場を作り、互いに意見を出し合い、受け止めあいます。
- 一、サミットでの学びや感動を、みんなに伝え、自分たちの活動にも活かしていきます。

■グループ・ゼミ③から

あたってだけりゃいいじゃない。ここからはじけりゃいいじゃない。この先に夢が広がっている。だって高校生だもん。

■グループ・ゼミ④から

- 一、お互いの意見を伝えあって、自分の行動をいつも振り返ってみようようにしたい。
- 一、ここで体験したことを少しでも自分の「力」に変えて、今のグループのステップアップにつなげたい。
- 一、ここで体験を、他の県の人たちにももっと知ってもらい、仲間を増やしたい。

■グループ・ゼミ⑤から

- 一 気持ちに気づいたら
- 二 笑顔で一歩前進
- 三 仲間を見つけ広げよう
- 四 互いに知り合い、自分を発進(信)
- 五 成長していく心を大切に

■グループ・ゼミ⑥から

硬い絆に想いをのせて 語りきれない 大切な青春の1ページをきざもう

平成15年8月21日

全国高校生ボランティア・リーダーズ・サミット2003 in 足利 参加者一同

参加者が6グループに分かれ、3日間にわたり、日頃の活動を発表したり、課題や悩みの共有や解決策、これからの地域での活動へのヒントをみんなて語り、考え、自主運営をするグループ・ゼミ。お互いをもっと深く知り合うことから最初のゼミは始まった。

8/20(水)

自分たちで決めていこう

午前中は、NPOコンソーシアム足利が企画を担い、地域の人たちが取り組んでいる活動現場に出向いて体験学習するフィールドワーク。

足利生まれの心の書家・相田みつをゆかりの場所・人を訪ねる小さな旅「相田みつをと出逢い隊」、「木のこころを生かして創る」、「水資源の再生に挑戦～教室から地域へ」、歴史と文化のまち足利をタウンウォッチングする「足利歴史散歩と路地裏探検」、「こどもと遊びの共有文化体験」、里山や森の中で自然の恵みを満喫して、人と自然との共生を体験する「みどりの自然学校へGO!」という6コースに分かれた。夢先案内人は専門性と柔軟性を持ったNPO関係者がつとめ魅力あふれるものとなった。

午後はフィールドワーク報告会。「相田みつをと出逢い隊」は、「ただいなくて皆のパワーの源」「頼りないのもいい」「みんなの根っこ」など、各人が考えたリーダー像を色紙に書いて発表した。

引き続き、グループ・ゼミを行い、フィールドワーク体験を活かした討論と活動事例の共有がなされた。

夜は夕食を兼ねて、参加者やスタッフが交流しネットワークを広げる全体交流会。足利市国際交流協会、在日外国人グループICCや企業が協力し、10カ国の料理もあり、楽しく交歓のひとときを共にすることができた。さらに、活動で身につけた歌や踊り披露もあった。

サミット宣言については、高校生実行委員会で詰めてきていたが、参加者全員で宣言を創りたい、という参加者の声を活かすべく、交流会でサミット宣言起草委員を募集した。

夜10時から7人の委員が草案作成作業に取りかかり、12時に全参加者が自主的に参集し、深夜の全体討論が繰り広げられた。グループ・ゼミの助言者は進行のサポートに徹し、決めるのは高校生自身ということ貫き、4時間の白熱した、真剣な議論、本音のぶつかり合いの結果、

午前のプログラムの体力を残すためにも、4時で討論を中断し、グループ・ゼミの時間を少し延長し、宣言文をゼミごとに決めることとなった。

8/21(木)

みんなの気持ちの一つの宣言に

睡眠時間が少なかったにもかかわらず、全員が約束の時間を守り、予定通りに最終日のプログラムは始まった。

グループ・ゼミでは3回のゼミのまとめを行った。前夜の討論によって、それぞれの気持ちの一つになり、考えの違いを認め、違うことの意味を考えあい、総意として、理解し共有しあえるゼミからの宣言を決めた。

11時から全員が一堂に会するサミットが市民会館別館ホールで行われた。3日間のプログラムで感じたこと、考えたことをグループごとに発表。その後、ゼミ助言者からメッセージ。最後にサミット宣言の発表が行われ、3日間の暑い、熱いサミットに参加した高校生たちはボランティアリーダーとしての決意を新たに、それぞれの地域に旅立っていった。

(報告/齋藤)

JYVAを
ご支援ください



青少年のボランティア活動推進の取り組みは、みなさまからのご支援に支えられています。賛助会員として「若者を元気にする」活動を支えてください。

賛助会員には、年4回「JYVA LETTER」が送付されます。賛助会費、ご寄付に対して法人税、所得税の控除が受けら

れます。また、「インターネットによる公益法人ディスクロージャー」の対象外ですので、お名前が公表されることはありません。なお、賛助会員は総会での議決権はありません。賛助会費は一口8,000円～(年額)です。この機会にぜひご入会ください。詳しくはJYVA運営管理部会員担当まで。